

世界の生命保険市場

- 2000年収入保険料データから -

保険研究部門 天野 佳子

1. 1998年から2000年にかけての推移

1999年、ついに景気の低迷を受けて日本は生命保険料収入ベースにおける「生命保険首位国」の座を米国に譲った。そして以降、両国の差は広がる傾向にある（図表 1）。あくまでも米ドルベースであるが、カナダ、スペインが3ランク順位を上げて市場シェアを確保している様子が窺える。スペインはここ数年順調にシェアを伸ばしてきているが、これはEU統合で欧州先進諸国の大手保険会社がバンカシュランス（銀行による保険販売）に一挙に乗り出している背景がある。

図表 - 1 2000年生命保険料収入
上位10カ国の動向（百万米ドル、%）

順位	国名	保険料 収入	シエア			シェアの変化		
			2000	1999	1998	00-99	99-98	
00 99 98								
1	1 2 米国	442,373	29.1	27.9	27.6	1.2	0.2	
2	2 1 日本	401,484	26.4	27.8	28.6	-1.4	-0.7	
3	3 3 英国	179,742	11.8	10.5	9.8	1.3	0.7	
4	4 4 フランス	84,761	5.6	5.8	5.9	-0.2	-0.1	
5	5 5 ドイツ	56,257	3.7	4.4	4.6	-0.7	-0.2	
6	7 6 韓国	44,236	2.9	2.5	2.8	0.4	-0.3	
7	6 7 イタリア	36,679	2.4	2.7	2.4	-0.3	0.3	
8	11 12 カナダ	23,257	1.5	1.5	1.5	0.1	0.0	
9	8 10 オーストラリア	22,941	1.5	1.8	1.7	-0.3	0.1	
10	13 13 スペイン	21,905	1.4	1.3	1.1	0.2	0.2	

（注）1ドル1999年111.49円、2000年110.74円（変化率 - 0.7%）
（資料）Swiss Re, Sigmaよりニッセイ基礎研究所作成

2. 明暗分かれる上位10カ国

(1) 好調国の要因

インフレ調整後の生命保険料収入対前年伸び率を見ると、スペイン、イギリス、フランスが世界全体の伸び率の倍以上という好調さを示した（図表 - 2）。3カ国ともGDP実質成長率は3~4%であるから、いかに生命保険市場が活況であったかがわかる。

スペインはもともとEU加盟国の中では生命保険市場が未発達で、既に保険市場の大きな英国、フランス、オランダ、等の大手保険会社の

図表 - 2 上位10カ国の生命保険市場（%）

	国名	保険料 伸び率	GDP 実質 成長率	生命保険 浸透率	生保 占率
1	米国	7.6	4.1	4.5	51.1
2	日本	1.1	1.0	8.7	79.7
3	英国	25.7	3.0	12.7	75.9
4	フランス	18.0	3.3	6.6	69.5
5	ドイツ	1.8	3.0	3.0	45.5
6	韓国	9.6	8.8	9.9	75.8
7	イタリア	9.0	2.9	3.4	58.2
8	カナダ	10.2	4.7	3.3	49.9
9	オーストラリア	1.9	3.8	6.0	35.8
10	スペイン	36.7	4.1	3.9	58.2
	全世界	9.1	3.8	4.9	62.3

（注）伸び率はインフレ調整後。

生命保険浸透率 = 生命保険料収入 / GDP

生保占率 = 生命保険料収入 / 生保・損保合計保険料収入

（資料）Swiss Re, Sigmaよりニッセイ基礎研究所作成

3. 拡大する生命保険市場

ターゲット市場となっている。今もスペインの銀行が欧州保険会社と販売提携する動きが続いているため、今後も生命保険市場の拡大が続くであろう。スペインにはわが国簡易保険のような公営保険もなく、「保険」に対する国民の感覚はこれから醸成される段階といえる。信用の厚い銀行窓口を欧州保険会社が狙う意味はそこにある。将来の資金リスクへの準備、という概念がなじみにくいラテンの国民性を同様に持つフランスも、これまでは養老保険のようなコツコツ貯蓄型に商品構成が偏ってきた。生命保険料収入のおよそ8割が、わが国における養老保険の性格を持つ保険からあがっている。しかし近年、銀行窓口が中心となって販売を展開している投信類似商品の「ユニット・リンク保険」が大きな市場成長をもたらしている。英国では、政府が高齢化社会の財政負担の軽減と個人貯蓄推進政策の一環として打ち出した、低手数料商品「ステーキホルダー年金」が押し上げ要因となっている。

(2) 日本、ドイツの苦戦

実質GDPの成長1%と低迷するわが国の生命保険市場の低迷はやむをえない感がある。残念ながら2001年以降も苦戦が続いている。しかし、同じく2000年に苦戦したドイツは少し事情が違ふようだ。ドイツでは、賦課方式の公的年金が財政を圧迫し、将来が懸念されていた。高齢者の年金収入の85%は公的年金で賄われている状態であったが、昨年2001年に大規模な年金制度改革法案が可決され、ようやく公的年金を段階的に縮小し、個人による「長生きリスク」準備を推進する政策がスタートした。この法案により生命保険会社を中心とする金融機関は活気づいており、法案施行の2002年以降は保険市場拡大が見込まれる^(注1)。

世界の生命保険市場は保険料収入ベースで99年1兆4,242億ドルから2000年1兆5,216億ドルとおよそ1,000億ドルの成長を遂げた。実質GDPの3.8%の成長に比べると生命保険市場は大きく飛躍したといえる。

高齢化社会の進展で、先進国において老後に向けた資産形成手段としての保険、年金の役割が大きくなってきている。そして、そのような社会情勢を受けて投資商品としての保険商品の開発が急速に進められており、資産形成の主力商品となっている国もある^(注2)。また、シェアこそ僅かであるが、旧東欧などを中心とした国で生命保険市場が急激に成長していること、が市場拡大の一つの要因となっている。

図表 - 3 生保市場伸び率上位 10カ国

	国名	インフラ調整後 市場伸び率	世界 シェア
1	ロシア	86.0%	0.19%
2	イラン	76.5	0.00
3	ルーマニア	45.2	0.00
4	アイスランド	39.2	0.00
5	スペイン	36.7	1.44
6	ベルギー	35.7	0.85
7	ハンガリー	35.2	0.04
8	トリニダード・トバゴ	33.3	0.02
9	エルサルバドル	31.7	0.01
10	ブルガリア	30.8	0.00

(資料) Swiss Re, Sigmaよりニッセイ基礎研究所作成

世界視野で見渡すならば、生命保険市場は「超」有望市場といえそうだ。そんな中、わが国生保は景気低迷と逆ざやを主因とする収支悪化に苦しみ、一人蚊帳の外に置かれている。

(注1) とはいえ、ドイツの財政逼迫は問題視されており、今年に入りEU委員会は年金財政の危機によりEU経済圏にドイツが加盟要件維持が危ぶまれている事実を指摘、積極的な改善への要請を行っている。

(注2) イギリスでは個人金融資産の53% (2000年) が生命保険となっている。